



28.10.2023

08:00 UTC+2 • 14:00 UTC+8 • 15:00 UTC+9

FACTS & CONTEXTS MATTER

MEDIA LITERACY
IN EAST ASIA
AND EUROPE

<p>15:00 (UTC+9)</p>	<p>開会</p>	<p>ラウ・アイメン ダブルシンク・ラボ ソーシャル・エンゲージメント・リード</p>
<p>15:15</p>	<p>東アジアとヨーロッパの誤情報と偽情報の力学</p> <p>モデレーター: ラウ・アイメン(ダブルシンク・ラボ)</p>	<p>ジャネット・ホフマン ベルリン自由大学メディア学・コミュニケーション学研究所教授</p> <p>鍛冶本正人 香港大学ジャーナリズム・メディア研究センター副教授</p>
<p>16:00</p>	<p>休憩</p>	
<p>16:15</p>	<p>生成AIは情報環境とメディア・リテラシー教育をどのように変化させるか?</p> <p>モデレーター: ユー・チーハオ(台湾情報環境研究センター(IORG)共同ディレクター)</p>	<p>ホン・ソンウク ソウル大学校サイエンス・スタディーズ科教授</p> <p>イザベル・フー 台湾AIアカデミー事務局長</p> <p>アントニオ・クルーガー ドイツ人工知能研究センター(DFKI)CEO兼科学ディレクター</p>
<p>17:00</p>	<p>政治を語る: 国家の規制とイデオロギー</p> <p>モデレーター: ジャネット・ホフマン(ベルリン自由大学)</p>	<p>マウリティウス・ドルン 戦略的対話研究所(ISD)上級デジタル政策・教育マネージャー</p> <p>古田大輔 日本ファクトチェックセンター編集長</p>
<p>17:45</p>	<p>休憩</p>	
<p>18:00</p>	<p>分科会: 4か国で実際に聞かれた誤情報とヘイトスピーチへの対処</p> <p>モデレーター: ラウ・アイメン(ダブルシンク・ラボ)</p>	<p>ジョン・スーキュン 民主的メディアのための市民連合(CCDM)政策委員会委員長</p> <p>長澤江美 スマートニュース メディア研究所研究員 & 坂本旬 法政大学キャリアデザイン学部教授</p> <p>シモーネ・ラファエル アマデウ・アントニオ財団デジタルプロジェクト代表</p> <p>ユー・チーハオ IORG共同ディレクター</p>
<p>19:00</p>	<p>誤情報とオンラインのヘイトスピーチへの効果的対処: グローバルな視座を生かし人々の力を結集した解決策を</p> <p>モデレーター: 鍛冶本正人(香港大学)</p>	<p>マウリティウス・ドルン ISD</p> <p>ジョン・スーキュン CCDM</p> <p>イザベル・フー 台湾AIアカデミー</p>
<p>20:00</p>	<p>閉会</p>	

ラウ・アイメン(劉 羿雯)



.....

[ダブルシンク・ラボ](#) (Doublethink Lab) のソーシャル・エンゲージメント・チーム・リード。アライアンス・カナダ・香港顧問。ダブルシンク・ラボでは外国による国境を越えた抑圧と中国人のディアスポラについて研究。カナダ、カルガリー大学にて公共政策修士号およびソーシャルワーク学士号を取得。現在は台湾、台北に在住。

ジャネット・ホフマン



.....

ベルリン自由大学メディア学・コミュニケーション学研究所教授。ベルリン社会科学センター(WZB)「デジタル化政治(Politics of Digitalisation)」研究グループ代表、アレクサンダー・フォン・フンボルト・インターネット・社会研究所(HIIG)共同ディレクター、ワイゼンバウム・ネットワーク社会研究所主任研究員。専門は民主主義とデジタル化、特にテクノロジーによる社会形成と社会変革効果。また欧州のデジタルプラットフォームに対する規制についても研究している。

鍛冶本 正人



.....

香港大学ジャーナリズム・メディア研究センター副教授。社会学博士(香港大学)。専門はアジアにおける誤情報、虚偽情報の生態系研究、ファクトチェック実践、ニュースリテラシー教育など。2019年にANNIEと呼ばれるアジア地域の報道の自由、メディア関連法案などを念頭に置いた教育NPOを設立し、各国の教育者、ジャーナリストと協力して教材の開発を行っている。大学では国際ファクトチェック・ネットワーク(IFCN)加盟団体である[アニー・ラボ](#) (Annie Lab) を主導している。

ホン・ソンウク

韓国ソウル大学校サイエンス・スタディーズ科教授。トロント大学で教鞭をとる(1995-2003年)。2015年にソウル大学校で科学技術論の学際的副専攻課程を開設し、2022年、新設のサイエンス・スタディーズ科の学科長に就任。技術的災害について論文や書籍を発表し、最近は人工知能の様々な社会的、倫理的、法的側面の研究に取り組んだ。

イザベル・フー

技術革新の法的問題を専門とする経験豊富な弁護士。2019年から2023年まで台湾の「g0v jothon(ガブ・ゼロ・ジョソン)」タスクフォースの議長を務めた。現在は台湾AIアカデミー事務局局長であり、AI市民フォーラムプロジェクトを主導。2019-2022年に台湾オープンバーラメント(開かれた議会)マルチステークホルダー・フォーラムの委員を務めたほか、シビックテックによる若い世代の連携促進を目指すSch001(スクールゼロ)プロジェクトの共同設立者でもある。

アントニオ・クルーガー

ドイツ人工知能研究センター(DFKI)CEO兼科学ディレクター、DFKI「認知アシスタント」部門長。ザールラント大学コンピューターサイエンス正教授(2009年以降)、同大学ユビキタス・メディアテクノロジー・ラボ代表、DFKIイノベティブ・リテール・ラボラトリー(IRL)科学ディレクター。人間とマシンとの相互作用と人工知能の専門家として世界的に知られている。

マウリティウス・ドルン



ドイツの戦略的対話研究所 ([ISD](#)) 上級デジタル政策・教育マネージャー。デジタル政策の提言の取りまとめを行うほか、一連の情報と対話により虚偽情報についての包括的理解をもたらすAHEADプロジェクトを主宰。またデジタル政策ラボ(DPL)を支援し、様々な報告書を共同執筆している。ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス(LSE)と上海の復旦大学よりグローバルメディアおよびコミュニケーション学の科学修士号(MSc)をダブルで取得した。

古田 大輔



[日本ファクトチェックセンター](#)編集長。日本、東アジアで朝日新聞記者、BuzzFeed Japan創刊編集長を経て独立し、2019年にメディアコラボを設立。日本のニュースメディアのデジタル変革を支援してきた。2020-2022年にGoogle News Labティーチングフェローとして延べ2万人超の記者や学生らにデジタル報道セミナーを実施。デジタル・ジャーナリスト育成機構事務局長、ファクトチェック・イニシアティブ理事。

ジョン・スーキュン



最近まで韓国、国際法律経営大学院大学校国際研究学科(Department of International Studies)助教授としてグローバルメディア文化学を教えてきた。また韓国のメディア監視と市民メディア教育専門のNGOである[民主的メディアのための市民連合](#)(Citizens' Coalition for Democratic Media)において、政策責任者として韓国メディア業界内の民主化を促進し、韓国市民のメディアに関する権利拡大に努めている。1990年代半ばから2000年代半ばまで、韓国公営放送ネットワークであるMBCで、放送作家として時事問題と歴史ドキュメンタリー番組の制作に携わった。その後独立し、制作会社を設立、情報・文化番組のシリーズを制作。2019年米国ジョージア州立大学にてコミュニケーション学博士号(PhD)を取得。

長澤 江美



スマートニュース [メディア研究所](#) 研究員・メディアリテラシー担当。愛知教育大学教育学部卒、同年時事通信社に入社。2020年12月にスマートニュースに入社。現在は、メディア・リテラシーの教材開発、出張講義、メディア・リテラシー教育の効果測定プロジェクトを統括している。

坂本 旬



法政大学キャリアデザイン学部教授。図書館司書課程を担当。ユネスコのメディア情報リテラシー・プログラムの普及をめざすアジア太平洋メディア情報リテラシー教育センターおよび福島ESDコンソーシアム代表

シモーネ・ラファエル



[アマデウ・アントニオ財団](#)の報道ウェブサイト、ベルタワードットニュース (www.belltower.news) 編集長。アマデウ・アントニオ財団は、ドイツの民主的活動家や組織の強化と支援により、極右主義、反ユダヤ主義、人種差別主義に反対する活動を行っている。シモーネ・ラファエルは「デジタル民主主義 (Digital Democracy)」部門の各プロジェクトの代表も務め、FacebookやX (旧Twitter)、YouTube、TikTok、Steam、Twitchなどのプラットフォームでのヘイト表現に対抗するキャンペーン、議論トレーニング、プロジェクトを展開している。

ユー・チーハオ (游 知濤)



ソフトウェアエンジニア、情報デザイナー、台北の台湾情報環境研究センター (台湾資訊環境研究中心/IORG) 共同ディレクター。IORGでは、科学研究、データエンジニアリング、コミュニティ参加、国際交流の調整を担当し、台湾における情報操作への対抗、選挙の公正性の確保、民主的レジリエンスの構築を先導している。台湾の市民ハッキング・コミュニティ「g0v」(ガブ・ゼロ)に積極的に参加しており、g0vにおける国際的タスクフォースを共同設立したほか、西太平洋の市民ハッキング・ネットワークである「Facing the Ocean」を組織している。

